



2021年度 第1回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2021年5月～6月)のポイント

(1) 概要：

シラスの漁獲量は平年並みか、平年を下回る。

(2) 海域別：

紀伊水道東部のシラスは不漁であった前年を上回り、平年並み。

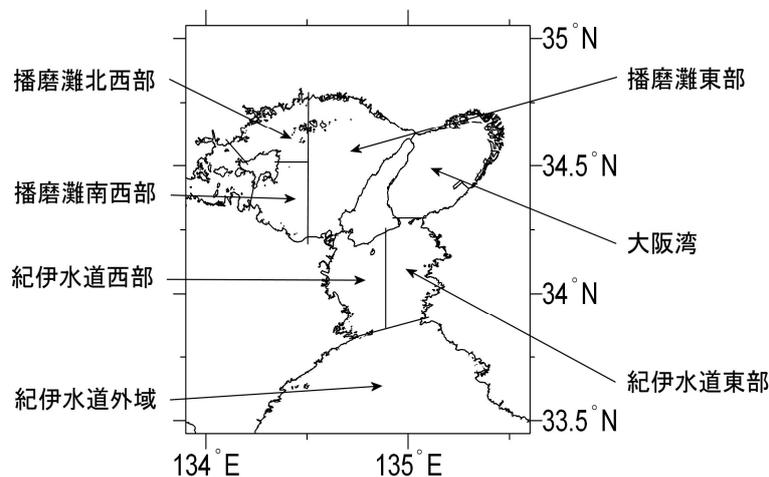
紀伊水道西部では平年並みであった前年を下回る。

大阪湾（大阪府）では不漁であった前年並み。

大阪湾（兵庫県）では平年並みであった2020年を下回る。

播磨灘東部・播磨灘南西部では好漁であった前年を下回り、平年並み。

播磨灘北西部では不漁であった前年を上回り、平年並み。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：企画調整部門（横浜） 森永
浮魚資源部（廿日市） 船本、河野

電話：0829-55-0666、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2021年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2021年5月～6月）

シラス（本年春季発生群）

紀伊水道東部のシラスは不漁であった2020年を上回り、平年並み。

紀伊水道西部では平年並みであった2020年を下回る。

大阪湾（大阪府）では不漁であった2020年並み。

大阪湾（兵庫県）では平年並みであった2020年を下回る。

播磨灘東部・播磨灘南西部では好漁であった2020年を下回り、平年並み。

播磨灘北西部では不漁であった2020年を上回り、平年並み。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～図3）、2010年～2019年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2020年1月～2021年4月）及び今後の見通し（2021年5月～6月）についての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2020年の漁獲量は前年の81%、平年の76%であった。2020年5月～6月の漁獲量は前年の49%、平年の63%であった。2021年1月～3月は前年の305%、平年の308%であったが、体サイズが大型であり、2020年産まれの子孫であったと考えられる。4月には体サイズが小型になったが、漁獲物としては小さいため、4月15日まで休漁とされた。4月16日以降の漁は好調である。紀伊水道外域東部では2021年1月～3月は前年の111%、平年の98%であり、4月も継続している。

紀伊水道西部（徳島県側）では2020年の漁獲量は前年の118%、平年の129%であった。2020年5月～6月の漁獲量は前年の59%、平年の92%であった。

大阪湾（大阪府）では2020年の漁獲量は前年の100%、平年の90%であった。2020年5月～6月の漁獲量は前年の60%、平年の58%であった。2021年は4月22日から漁が始まり、好調である。

大阪湾（兵庫県）では2020年の漁獲量は前年の78%、平年の98%であった。2020年5月～6月の漁獲量は前年の61%、平年の79%であった。2021年は4月19日から漁が始まった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2020年の漁獲量は前年の103%、平年の130%であった。2020年5月～6月の漁獲量は前年の126%、平年の168%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2020年の漁獲量は前年の112%、平年の92%であった。2020年5月～6月の漁獲量は前年の80%、平年の127%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2020年の漁獲量は前年の50%、平年の58%であった。2020年5月～6月の漁獲量は前年の63%、平年の77%であった。

(2) 日向灘～紀伊水道・大阪湾での卵稚仔調査結果

水産資源研究所（横浜、廿日市）がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況に関する報告によると、2021年1月～3月には日向灘～紀伊水道外域で産卵が認められ、合計産卵量は18兆粒（前年比52%、平年比57%）であった。

和歌山県水産試験場と徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課が2021年2月～3月に行った定線調査では、紀伊水道外域での卵密度は2月に0.3粒/m²（前年比17%、平年比8%）、3月に0.2粒/m²（前年比3%、平年比2%）であった。仔魚密度は2月に0.3個体/m²（前年比139%、平年比34%）、3月に0個体/m²（前年2個体/m²、平年4個体/m²）であった。紀伊水道での卵密度は2月に0粒/m²（前年採集なし、平年0.04

粒/m²）、3月に0粒/m²（前年0.4粒/m²、平年2粒/m²）であった。仔魚密度は2月に0個体/m²（前年、平年採集なし）、3月に0個体/m²（前年採集なし、平年2個体/m²）であった。

大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センターが2021年4月に行った定線調査では、大阪湾で採集されたカタクチイワシ卵数は多かったが（前年比189%、平年比3,573%）、仔魚数は2020年並みであった。

(3) 黒潮流路の現況と今後の予測

4月13日現在、シラスの来遊に影響を与える黒潮流路は、都井岬でかなり離岸、足摺岬・室戸岬で著しく離岸、潮岬でかなり離岸している。海面水温衛星画像によると、室戸岬～潮岬沖で黒潮は南東に大きく蛇行しており、両岬沖が大蛇行の西端付近にあることが確認できる。海面水温衛星画像によると、室戸岬～潮岬沖で黒潮は南東に大きく蛇行しており、両岬沖が大蛇行の西端付近にあることが確認できる。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産研究・教育機構運用の海況予測システム FRA-ROMS 予測結果を併せて考慮すると、5月～6月における室戸岬～潮岬の黒潮は離岸して推移すると予測される。

(4) シラス漁況（本年春季発生群）の見通し

紀伊水道の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、及び外海からの輸送条件に依存する。また本漁期の後半には紀伊水道から大阪湾での産卵に由来するシラスが漁獲される。日向灘～紀伊水道外域の1月～3月の合計産卵量は平年を下回っている。また4月13日現在、黒潮は潮岬でかなり離岸しており、5月～6月の黒潮流路の変動予測から、外海からの輸送条件は悪いと考えられる。しかしながら、4月の紀伊水道外域における漁況は平年並みであり、紀伊水道における漁況は好調である。また大阪湾での産卵量が多いことから、紀伊水道東部では不漁であった2020年を上回り、平年並みと予測される。例年、本漁期を通して漁獲のある紀伊水道西部においてもシラスの外海からの輸送条件は悪いと考えられる。また、春季のシラス漁獲量と関係が深いと考えられる日向灘及び紀伊水道外域におけるカタクチイワシ親魚の漁獲量から判断すると紀伊水道西部では平年並みであった2020年を下回ると予測される。

大阪湾の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び外海からの輸送条件に依存する。日向灘～紀伊水道外域の1月～3月の合計産卵量は2020年、平年を下回っている。また4月13日現在、黒潮は潮岬でかなり離岸しており、5月～6月の黒潮流路の変動予測から、外海からの輸送条件は悪いと考えられる。大阪湾での産卵状況は良いものの、仔魚の採集数は2020年並みであることから、大阪湾（大阪府）では不漁であった2020年並み、大阪湾（兵庫県）では平年並みであった2020年を下回ると予測される。

播磨灘の春季シラス漁も主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び外海からの輸送条件に依存する。上述の産卵状況、漁況、及び外海からの輸送条件から判断すると播磨灘東部・播磨灘南西部では好漁であった2020年を下回り、平年並みと予測される。播磨灘北西部では不漁であった2020年を上回り、平年並みと予測される。

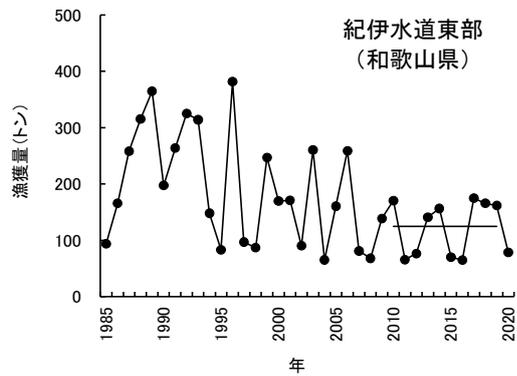
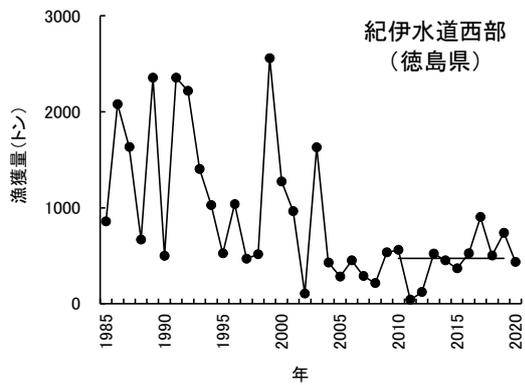


図1 紀伊水道西部（徳島県側）、及び紀伊水道東部（和歌山県側）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

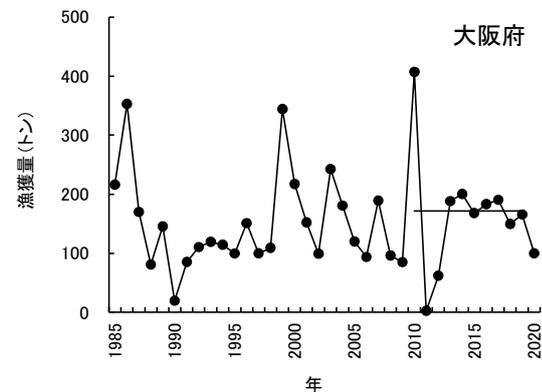
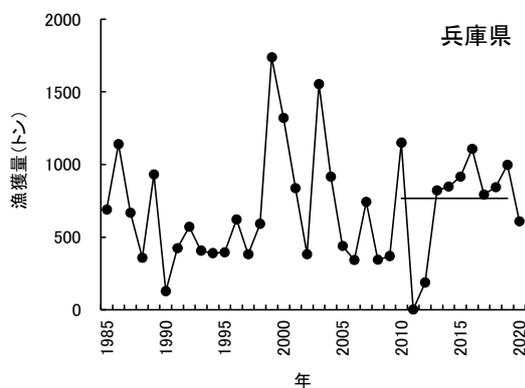


図2 大阪湾の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

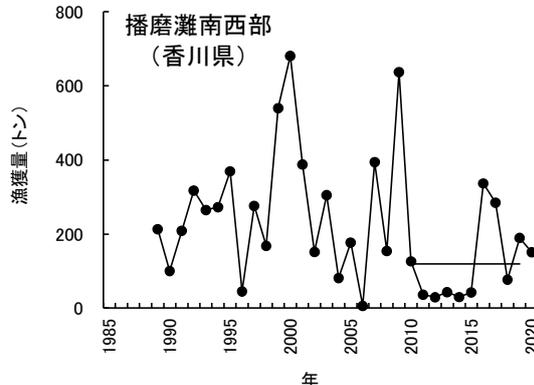
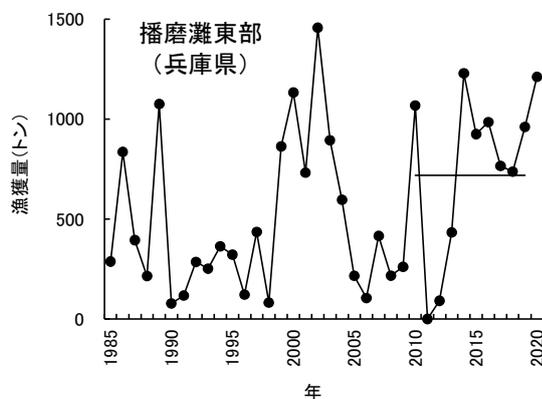
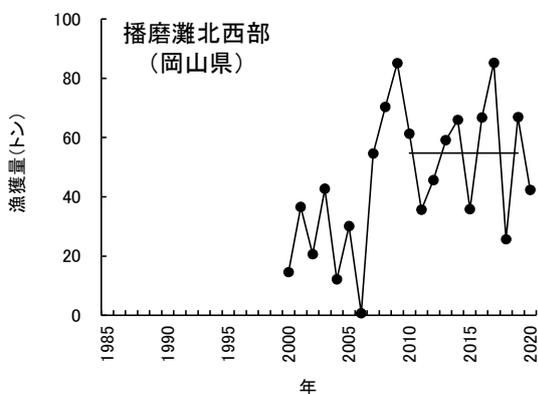


図3 播磨灘北西部（岡山県側）の標本船における5月～6月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側）、及び播磨灘南西部（香川県側）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

参 画 機 関

<p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p>	<p>香川県水産試験場</p> <p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課</p> <p>(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p>
--	---